

ムササビが棲む森 — 御嶽神社叢林 (南足柄市)

ちよつき はじめ
一寸木 肇 (大井町教育委員会おおい自然園園長)



淡黄色の小さな花 イズセンリョウ (5月)



御嶽神社の鳥居と鳥居杉

入り口には鳥居杉

小田原駅から伊豆箱根鉄道大雄山線に乗り、相模沼田駅で下車。農協とスイミングスクールの間の道を西に向かって登っていきます。変電所からは、御嶽神社がある三竹地区です。信号機がある広域農道を横切り、バス停「三竹」前にある「寒念仏供養」「富士浅間大神」などの大きな石碑を見ながら進むと、「御嶽神社 鳥居杉御神水この先650 m」の表示が見えてきます。人家がまばらになり、杉木立の参道を進んでいくと、鳥居がある広場に出ます。

鳥居の奥には、新編相模風土記稿に「杉二株、鳥居杉と称す」と記述さ

れた高さ約50mのスギの大木(鳥居杉)がそびえています。この杉は、根元付近から2株に分かれており、よく見ると、滑空してきたムササビが駆け上がるため、樹皮がささくれ立っています。

鎮守の森

この鳥居杉は昭和59年に「神奈川の名木百選」に選ばれています。以前から御嶽神社を取り囲む社叢林は県と南足柄市の指定文化財となっているのです。それは、スタジイ、タブノキ、シラカシ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹が「鎮守の森」として伐採をまぬがれ残っているからです。特にスタジイの巨木群は圧巻で、社殿の横にも幹を伸ばしている大木があります。それ以外にもカゴノキ、ムクロジ、ムクノキ、バクチノキなどが見られ、低木層にはヤブツバキ、アオキ、イズセンリョウ、林床にはアリドオシが見られます。

いろいろな生きもの

早春、御神水と呼ばれる水源からは、タゴガエルのくぐもった声を聞くことができます。初夏には、オオルリやキビタキがやってきて、森は華やぎます。秋、スタジイが実を落とすだけでなく、ムクロジの実も成熟します。冬の静かな森では、スタジイの幹をゴジュウカラが行ったり来たりするのを目にすることができます。

また、一年中、黄昏時には、あたりで「グルグルグル・・・」という鳴き声を聞くことができます。ムササビです。冬眠をしない彼らにとって常緑樹の森は、いわば食料庫なのです。

中世には、このあたりは修験道の道場として使われたと言います。山伝いに点在する板屋窪の長泉院、道了尊で有名な大雄山最乗寺なども修験道と深く結びつくとともに、ムササビが棲息しています。スギ林も含めた常緑樹林が、その棲息を可能にしているのです。



アリドオシの赤い実 (4月)



スタジイを見上げる



鳥居杉と社殿に続く石段



社殿とスタジイの巨木

